

東証初7万円

米イランとAI期待

2カ月弱で大台塗り替え

16日の東京株式市場で、日経平均株価(225種)が史上初めて7万円を超えた。6万円を突破してから2カ月足らずで大台を再び塗り替えた。米国とイランの戦闘終結と人工知能(AI)市場拡大への期待から買い注文が膨らんだ。前日の米国市場でハイテク銘柄が買われた流れを引き継いだ。堅調な企業業績を背景に上昇基調は続くとの見方がある。

平均株価は、停戦期限の日に6万円を超えた。その方が覚書の合意を表明した時間中の上げ幅が3600円超と過去最大を記録した。

相場をけん引するのはAI関連企業だ。AI投資に積極的なソフトバンクグループは1日、時価総額が国内企業首位だったトヨタ自動車を抜き、22年半ぶりのトップ交代を実現した。AIに欠かせない半導体関連企業の株価も右肩上がりだ。



初めて7万円を超えた日経平均株価を示すモニター(16日午後、東京都港区の外為どっとコム)



平均株価はバブル経済期の1989年に終値で最高値の3万8915円を付けた後に低迷したが、安倍政権の経済政策「アベノミクス」で上昇基調に転換。昨年10月には高市政権の積極財政への期待で5万円を超えた。